

新中同窓会報

発行
新穂中学校
同窓会事務局
印刷
新穂印刷

創立七十五年

「心の原風景」



同窓会会長

本間 一秀 (瓜生屋)

(昭和50年度卒)

新年おめでとうございます。会員の皆様には、日頃より母校の活動に温かい励ましやご支援をいただき感謝申し上げます。

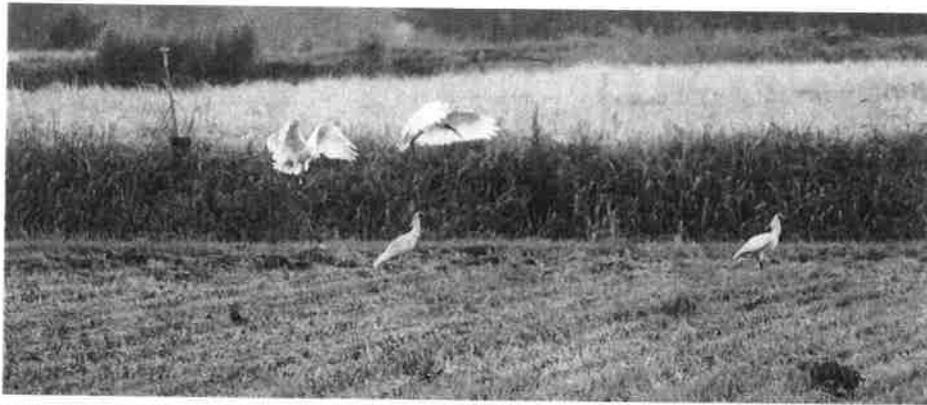
先日、あるテレビ番組で「幼少期の心の原風景こそが地域再生の鍵である」という言葉に触れました。大人になって自分を支えるのは、子ども時代の自分自身だということです。朝ドラ「舞い上がれ」で福原遥さんが演じる主人公は、幼少期の自然豊かな長崎五島列島の体験から「空」に憧れを抱き、「飛ぶ」夢に向かって突き進んでいます。

我が身を振り返ってみると、確かに最近年を重ねる度に物忘れが進んでいますが、幼少期に見た風景や体験は鮮明に蘇ってきます。平成8年発行の創立50周年記念誌「新穂中の50年」の誌面には、昭和23年度第1回から平成9年度第50回までの卒業

生の中学生時代の心の原風景が記されています。

古いけれど木のぬくもりに包まれて過ごした木造二階建ての旧校舎、校庭に植えられていたメタセコイアの大木や金木犀の香り、友と共に汗や涙を流し打ち込んだ部活動体験、クラスの皆で心を一つに燃やした体育祭などの諸行事等々、みな懐かしく輝かしい「心の原風景」です。

今の子どもたちの心の中には、どんな原風景が育っているのでしょうか。将来子どもたちが、何処にいても佐渡、新穂で育んだ「心の原風景」を自分の根拠として、夢の実現に向かって障壁を乗り越えて逞しく成長す



母校近況報告

新穂中学校校長 岩崎浩史

新型コロナウイルス感染の終息が見通せない状況が続いています。同窓会の総会も昨年、一昨年と中止せざるを得ない状況となっており、同窓会員の皆様には大変ご迷惑をお掛けしております。コロナ禍にある母校に向けて前同窓会長の本間健人氏が、同窓会報第14号の巻頭言で、コロナ危機をどう乗り越えるか、「ピンチはチャンス」として学校教育への期待を述べています。

佐渡市は、令和3年度より一人一台端末(タブレット)を島内の全小中学校に導入しました。当校では、授業における端末の活用にも取り組んで、臨時休業期間には、タブレットを使った授業配信や学級活動を実施し、ICT教育を推進して学びの保障に努めました。さらに今年度は、タブレットの多様な機能の活用を進め、岡山県や長崎県の中学校との交流活動、夏季休業中の課題提供と提出、部活動の技術の向上を目指した動画撮影、保護者や生徒を対象としたアンケートを実施しました。また、PTA役員会をオンライン会議として実施したり、新穂PTA協議会の教育講演会を、会員であればどこからでも参加できるハイブリット方式で行ったりしました。このように多くの教育活動を効率化すると

新穂中学校の今

昨年度からの新穂中の主なあゆみを紹介します。

令和3年度

- 生徒数80名(男子46名、女子34名)
- 山王神社祭祀見学
- 一人一台端末活用開始
- 県通信陸上大会男子走幅跳優勝
- 県陸上大会砲丸投2位
- 北信越陸上大会男子走幅跳出場
- オンヨネカップ県野球大会出場
- 県新人バスケットボール大会出場
- あいさつ祭り実施(10月)
- 2年生課題解決型職場体験
- 県NIE研究発表会
- 立志元服式
- 講師 佐渡市子ども若者課課長 市橋法子様
- 双方向オンライン授業実施
- 第75回卒業証書授与式・同窓会入会式(男子16名、女子9名)

令和4年度

- 生徒数77名(男子45名、女子32名)
- 天王祭(記念例大祭) 見学
- 県通信陸上大会出場
- 県総体野球大会出場
- 県総体バスケットボール大会出場
- 離島甲子園大会佐渡市中学校1・2年生選抜優勝
- 県オンヨネカップ野球大会3位
- あいさつ祭り実施(6月、10月)

同窓生であるが故の親近感

後藤 勝弥(下新穂)
(昭和42年度卒)

中学校を卒業して、それこそ数十年ぶりに母校の入学式に参列する機会があった。入場すると、同じ顔がちらほら見られて、何となくホッとすると、それでも「母校」の式典という感覚はそんなになかった。

ところが、「校歌斉唱」となると、「あーおぞららたーうーく...」と歌い出した途端、胸にジーンと響くものがあった。もう何十年と歌ったことがなかったのに、自然と次の歌詞が口の上で出てくる。周りを見る

と、在校生はもちろん、保護者もかっている人たちが、何も見ないで歌っている。「我が母校」という感覚と、場内の人々との一体感が、どこからともなくジワッと湧いてきた。

その時から「同窓生」としての一体感を形づくものの一つは、校歌が空で口ずさめることにあるのではないかと考えるようになった。そういえば、以前の同窓会報に、同級会の最後には必ず校歌を出席者全員で歌うという記事が載っていた。

新穂地区は、この数十年、幸い中学校は一つしかない。だから、この地区の住民の大半は、同じ校歌を歌える同窓生である。私が「新穂」の人たちに、

ニイボニア ニイボ

齋藤 真一郎(青木)
(昭和57年度卒)

トキの学名はニツポニアニツポン、あのトキを新穂村時代に村をあげて保護活動に取り組んできたことから、トキは新穂の鳥、ニイボニアニイボと比喻されたと聞いています。

平成11年に日中友好の象徴として2羽のトキが贈られてから23年後の今、500羽を超えるトキが佐渡の空を舞うようになり、先導の空を舞うようになった頃、先輩農家の方々が、「もう一度トキが飛ぶ風景をみたい、復活させたい」という熱い想いに触れ、トキを増やす農業を先輩方と、新穂の田んぼから始めました。この野生復帰活動から感じたことは、皆さんがトキはもちろん、それ以上に新穂の土地、風景人が好きなんだということでした。

そしてもう一つ復活させるべく取り組んでいるのが、新穂ダムの桜です。新穂ダムは各部活練習でのランニングや、

たとえ話したことがなくとも、どことなく親近感を覚えるというの、そんなところの原因があるのかも知れない。しかし、他の地域からこの地区に入ってきた人にとっては、どうだろうか。逆に抵抗感を感じてはいないか。当然配慮が必要と思う。新穂の住民であることの幸せを感じつつも、この地区に住むどんな人にも住みやすい地域にしていきたいものである。今進みつつある学校統合計画には、不安と寂しさを強く感じている。しかし、その一方で、「新穂」から、「国仲」あるいは「佐渡」という意識の広がりも期待したいと思う。

私たちの代は

相田 由愛(北方)
(平成26年度卒)

「こないだ卒業したばかりなのに、また卒業とか早くない？」
「ついこないだ中学校卒業して、高校生になったと思っただけなのに、時の流れの早さに驚きながら楽しんでたのは、中学校を卒業して3年経った高校最後の春休みまで。湯上温泉の客間に会場として、私たちは集まりました。中学校を卒業し、私たちの代は、佐渡高校と総合高校に半々くらいと、県外などに分かれてしまった。なので、クラスの半分が「久しぶり」でした。私たちの代は、一言でいうと「黄金期」です。自画自賛という風に捉えられるかもしれませんが、これは、自画自賛ではなく、当時の先生方が私たちに言ってくれたのでした。まあ、私たちがのせられたのです。そのための言葉だったのかもしれないけれど、笑。ですが、これを読んでもくださる何人かは頷いてくださると思います。私たちは、最高学年になった年、様々な行事、普段の学校生活において、学校全体を盛り上げ、引っ張っていたと思います。一つ例を挙げるとしたら、文化祭で行われた「パフォーマンス大会」でのあ

星空一人一人が主人公

山口 真央
(生徒会長)



令和4年度の生徒会スローガンは「星空一人一人が主人公」です。このスローガンには、色々な色がある星のように、人は皆それぞれ、個性を認め合ひ、時には輝けない星があっても、そんな時はお互いが支え合って、いつかは満天の星がこの新穂中学校に輝くように。そして、皆が一つの輝く星に成長できるように。という思いが込められています。また、「自律」「尊重」「関係性」の生徒会基本方針を意識して日々の

風師の言葉

梶原 敦瓜(生屋)

新穂のことが好きすぎて、相川出身の私が、令和4年6月、とうとう新穂に家を建ててしまいました。
私が新穂中学校に勤めていたのは、平成18年から平成23年までの5年間でした。新穂中学校での思い出で、特に印象に残っている出来事は二つあります。一つは結婚に際していただいた職員、生徒からの祝福です。自分の結婚式を一週間後に控え、私は秋田県にいました。翌年行われる「新潟ときめき国体」のバスケットボール競技の視察のためです。二泊三日の視察を終え、新穂中学校に戻ると、グラウンドに「結婚おめでとう」の文字が。当時の庁務員さんが芝刈り機を駆使して、文字をグラウンドにしたためてくれたのです。また結婚披露宴では、担当学年の生徒が会場に来てメッセージと、私や妻を披露してくれました。私に歌を披露してくれただけの準備をしてくれた職員・生徒の皆様、に感謝の言葉もありません。

活動に取り組んでいます。今回は、私たちの取り組んできた活動のうち二つを紹介しました。「あいさつ祭」は、地域の方と一緒にあいさつを盛り上げる活動です。当日には、登校した人にくじを引いてもらい、そこに書かれている他国の言語や都道府県の方言であるあいさつをするという取組をしました。生徒や先生方、地域の方も普段は話さない言語でのあいさつを楽しんでくれて、皆が笑顔になり、良い取組になりました。さらに、あいさつ強調週間を実施し、「あいさつビンゴ」を期間中に全校に取り組んでもらうなど、あいさつ向上のためにたくさん工夫しました。二つ目は、SDGsの取組です。



この文章を書きながら、これは次回集まりを企画したいとなら、と思いましたが、なんと恐怖のアラサーになる前に、

【令和4年度同窓会役員】

- 顧問 岩崎 浩史(新穂中学校校長)
- 会長 本間 一秀(瓜生屋)
- 副会長 磯部 浩伸(湯上)
- 荒光さゆみ(馬場)
- 庶務 内海 正満(北方)
- 会計 和田 淳子(長畝)
- 幹事 土屋 一裕(内巻)
- 木下 弘子(湯上)

同窓会からのお知らせ

同窓会総会を、今年度は1月27日(金)18時より新穂中学校を会場に行います。時節柄、懇親会は実施できませんが、久しぶりに母校を訪れ、懐かしい仲間にお会いしていただければと思います。ぜひご参加ください。

●寄贈について

毎年、同窓会から母校を巣立つ卒業生に卒業証書ホルダーを寄贈しております。



●お問い合わせは...

〒952-0116
佐渡市新穂瓜生屋7-19
新穂中学校内
新穂中学校同窓会事務局
電話 0269-222-2067
FAX 0269-222-2068
e-mail nihyo@sisuodai.jp
HP http://nihyo-sisudai.jp/